

第 168 期 定時株主総会 質疑応答

2024 年 6 月 26 日（水）に開催した第 168 期定時株主総会におけるご質問およびご意見に対する当行の回答は、以下のとおりです。

質問	回答
<p>1. 2024 年 5 月 30 日に開催したインフォメーション・ミーティングにおいて、津山頭取は、当行の弱みを収益力の低さであると回答した点に関して、その原因と今後の改善についてお聞きしたい。</p>	<p>（議長）収益力の低さの原因は、1 点目に日銀のマイナス金利政策など金利環境の影響、2 点目に北海道内の景気環境の影響があると考えている。</p> <p>今後の改善策は、お客さま本位を徹底し、お客さまとの面談を増やしていくことで、法人のお客さまには、事業承継やビジネスマッチングなどのニーズや悩みをいち早く汲み取り、グループ総力を挙げて、その解決策を提供することで当行の収益に繋げていきたい。</p> <p>個人のお客さまには、人生 100 年時代を迎え資産形成ニーズが高まっており、あわせて、資産承継が大きな課題でもあるので、こちらもグループ総力を挙げて、お客さまの課題を解決することで当行の収益に繋げていきたい。</p> <p>さらに新たな産業として、GX や半導体に関連する融資案件が増加しており、半導体関連では足元で成約分も含め約 600 億円の融資案件が進み、GX 関連では足元で約 2,100 億円の融資案件を見込んでいる。これらのチャンスを捉え、当行の収益向上に繋げていきたい。</p>
<p>2. 今期の計画は、前期比 20%位の増益計画であるが、その実現可能性と可能な範囲での業績見通しをお聞きしたい。</p>	<p>（議長）法人融資平均残高は年率約 5%の増加を計画しており、チャレンジングな目標ではあるが、新たな産業に関連した融資や既往取引先への融資により、実現可能性は高いと考えている。</p> <p>また、マイナス金利の解除に伴い、今期は約 7 億円の資金収支のプラスを計画で見込んでいる。さらに、10 月に政策金利 0.5%程度の引き上げがあったと仮定した場合、今期は 30 億円程度の収益へのプラス影響があると考えている。この仮定には前提があるので、詳細は当行ホームページに掲載しているインフォメーション・ミーティング説明資料をご覧いただきたいが、預金金利が先行して上昇し、貸出金利は後から上昇するので、タイムラグがあるが 1 年間に換算した想定効果は約 100 億円を見込んでいる。</p>

質問	回答
3. 冬季オリンピックの誘致に対する当行の考え方をお聞きしたい。	(議長) 経済的な波及効果も大きいと思うが、内容を拝見し、経済的な影響や環境面への影響を見た上で、判断していきたい。北海道経済のためになるならば、応援したいと思う。
4. 招集ご通知 32 ページの取締役会スキルマトリクスについて、津山頭取の法務コンプライアンスの部分にマルが付いていないが、これは法務コンプライアンスができないということなのか、それとも、これまでの経験があまりないということなのかをお聞きしたい。	(議長) 私自身、法務コンプライアンスを社内に浸透させる立場として、スキルを高めていますし、経営陣として必要な法務コンプライアンスの知識は有している。スキルマトリクス上は、専門的知見や実務経験を有している場合にマルを付しており、ここでは、弁護士や法務コンプライアンスを専門な実務経験のある候補者にマルを付けたものである。
5. 津山頭取は、人財が大切ということをお話しているが、北洋銀行グループ内での異動だけでは、グループ内の知見以上には発展しないし、北海道のためにならないのではないか。	(議長) 例えば、GX 関連事業に対して、当行グループには、専門的な知識や知見が不足しており、知見を有する他の金融機関や外部機関に相当数、職員を派遣している。専門的知識や知見を高め、道内の皆さまに還元できることを目標に取り組んでいる。また、若手職員より、外部の知見習得のため、希望があれば、取り上げられる仕組みを検討したい。
6. 当行の従業員数が減っているが、職員の離職によるものか、それともその他の要因によるものか。離職率の分析をしているのか。	(議長) 当行の離職率は、他業態や同業態の他社と比べても高い水準にはない。職員数の減少は、団塊の世代の定年退職が要因で、定年退職数に比べ、新卒採用が少なかったことから、その差の 100 名位の減少が続いてきた。採用者を昨年の 88 名から今年は 135 名まで増やす計画にあり、将来を担う若手職員を確保するとともに、中途採用で専門的な人材の採用や当行退職者の再雇用にも対応したい。 離職率の分析は行っており、離職の一番多い層は、入行 3 年目までの職員で、自己都合の退職である。現在、人事制度の改革を進めている中で、若手職員の意見も聞き、当行で引き続き勤務したいという気持ちが高まるような人事制度にしていきたい。
7. リスク管理債権が増えているが、その理由と対策をお聞きしたい。	(議長) 2024 年 3 月期の信用コストは、60 億円で前期比 12 億円の増加で、この要因は 2 つあり、1 つ目は大口先 1 件 37 億円のランクダウン、2 つ目は予め景気が後退する可能性に備えた予防的な貸倒引当である。 予防的な貸倒引当は、2021 年 3 月期から実施しており、トータルすると約 200 億円を引当てしている。なお、今期の信用コストは 20 億円を計画している。当行は、地域銀行の中では不良債権比率が低い方からトップ 10 に入っており、安全性に問題はないと考えている。

質問	回答
8. JR北海道の債権の区分や貸出方針をお聞きしたい。	<p>(議長) 個別の取引先に関する質問には、回答を控えさせていただくが、JR北海道は、北海道のインフラを支える重要な企業であると認識している。JR北海道に関しては、国の様々な施策を含め改善計画を組まれていると認識しており、それを踏まえながら、当行では対応を検討していきたいと考えている。</p>
9. ラピダス関連の貸出状況や今後の取組みをお聞きしたい。	<p>(山田取締役) ラピダス進出に伴う経済効果は、2036年度までに18.8兆円と試算されており、間接的な波及効果は7兆円と当行で試算している。その効果は、1つ目に道内のサプライチェーンの構築による道内企業の成長、2つ目に進出する関連企業の従業員やその家族を含めた人口増加、3つ目にこれらに関連した観光産業等の成長が考えられる。</p> <p>現在は、試作ラインの稼働準備の段階にあり、道内企業中心に工場建設受注に伴う運転資金や、進出する関連企業の従業員向け共同住宅の投資等が中心になっている。当行では、累計600億円相当の融資案件があり、現時点で220億円を成約した。半導体製造に係るサプライチェーン構築の他、人材育成も必要になっており、これは官民を挙げて取り組んでいきたい。</p> <p>ラピダス本体向けの融資については、まだ具体的な話はなく、政府保証の新聞報道もありましたが、まだ具体化していない。これから工場が増設していく中で、仮にラピダス向けに融資が必要になった場合、当行は、道内外の金融機関と協調して貢献できればと思う。</p> <p>(議長) 間接効果は7兆円あると試算しており、この効果を全道に広げていくことが、当行の役目だと思っている。最近、オホーツク圏や道南圏のお客さまがラピダスとの取引を開始したということも聞いており、全道にチャンスを広げていきたい。</p>
10. 役務収益が今後伸びていく要素をお聞きしたい。	<p>(議長) 100%子会社の北海道共創パートナーズでは、法人のお客さまに対して、人材紹介や事業承継、M&Aなどの支援をしている。北海道共創パートナーズの業績が好調であり、今後、さらに伸ばしていこうと考えている。また、個人のお客さまに対しては、北洋証券と当行の間で棲み分けをしながらも、お客さまのニーズを一番に考え、提案している。その他、リース会社なども有しているので、役務収益を連結ベースで伸ばしていく。</p> <p>お客さまが気付いていない潜在的なニーズを当行グループから提案していくことで、お客さまにとっての課題解決と当行にとっての役務収益に繋げていきたいし、そのためにも人材育成を進める必要がある。</p>

質問	回答
<p>11. 昨年の株主総会では、自社株買いの株主提案があり、それ自体は否決されたが、その後、行内ではどのような議論がなされてきたのかをお聞きしたい。</p>	<p>(議長) 昨年の株主提案が直接の要因ではなく、株主への還元は、これまでも重要事項と捉えていた。安定的に安全な経営基盤を維持することも重要であることから、これらを踏まえ、取締役会で議論し、本年5月に配当性向30%以上、自己資本比率の水準、業績の見通しや外部環境などを勘案し、年間の配当額と自己株式の取得の総額を親会社株主に帰属する当期純利益の50%を目安とすることを公表した。</p> <p>自己資本比率の十分性は、外部環境や収益状況により都度見直しながらも、足元では自己資本比率10.5%水準を超えるようであれば、安定的な経営ができ、リスクに備えていけると考えた。今後も損益の状況や自己資本の動向を踏まえた株主還元の見直しは常に必要であり、取締役会で議論を継続したい。</p>

意見	回答
<p>1. 株主総会に出席できない株主に向けて、株主総会をライブ配信してほしい。</p>	<p>ネット配信を通じて、投資家の皆さまに情報発信することは重要だと考えている。ただし、会場内の映像を配信する場合、株主の皆さまのプライバシーへの配慮などの課題がありますので、適切な対応を整備できることを前提にネット配信も検討していきたい。</p>
<p>2. 将来の地域の発展に向けて、種をまいた職員を適正に評価する人事制度にしてほしい</p>	<p>現行の人事考課の中でも、将来への種まきをした職員を評価する制度になっているが、現在、人事制度改革を進めており、将来への種まきをした職員への評価については、さらに進化させていきたい。</p>
<p>3. 第3号議案、第4号議案において、取締役候補者を紹介したときに、その候補者は一礼をしていない。紹介されたときには、席で一礼をする、挙手をする、起立して一礼をするのが一般的だと思う。検討してほしい。</p>	<p>今回は、登壇の際に一礼をさせていただきましたが、ご意見を踏まえ、来年以降の取締役候補者紹介の際の対応を検討したい。</p>
<p>4. プロ投資家を社外取締役に採用することを検討してほしい。</p>	<p>現時点では、本総会で提案している取締役候補者が適切と考えているが、今後、外部環境の変化も踏まえながら、様々な社外取締役の採用の可能性について、検討していきたい。</p>